

ポルトガルにおける

エチオピア関係文書調査

石川博樹

□はじめに

日本布教におけるイエズス会士たちの華々しい活動はよく知られているところであるが、ほぼ同時期に彼らの同僚が北部エチオピアのキリスト教王国においてローマ・カトリック信仰を広めようとして苦闘したことは、日本ではほとんど知られていない。イエズス会によるアジア・アフリカ布教を保護したのはポルトガル王であり、実際に布教にあたった宣教師にポルトガル出身者が多かった関係で、ポルトガルにはイエズス会北部エチオピア関係文書が多数残されている。ここではポルトガルにおいて私が行った文書調査について、特にブラガ地方文書館における調査を中心に紹介したい。

□イエズス会北部エチオピア布教

イエズス会が北部エチオピアに宣教師を派遣したのは、この地のキリスト教王国の君主がローマ・カトリック信仰に改宗することを約束したという情報が、ヨーロッパにもたらされたからであった。これは誤報であったことが後に判明するが、この情報を信じたイエズス会士たちは北部エチオピアをザビエルが絶賛した日本と並ぶ、布教に有望な土地と考えたのである。しかし実際に布教が開始されると、日本布教が急速に進展したのに対

して、北部エチオピア布教はキリスト単性論を奉ずるエチオピア正教会の抵抗にあつて難航した。

しかし1603年にカスティーリャ出身のイエズス会士パエスが入国すると状況は大きく変化した。彼は続いて入国した他の宣教師たちとともに文語のゲエズ語、口語のアムハラ語を習得し、エチオピア正教会で重視された教義書や当時ヨーロッパで好評を博していた聖書の注釈書などを用いて、エチオピア正教会の教義や慣習を批判した。彼らの巧みな布教活動の結果、聖俗の知識人の中にはローマ・カトリック信仰に改宗する者が増加した。1607年に即位したススネヨス(在位1607~1632年)は、当時王国内に攻めこんでいたオロモへの対応に苦慮しており、インドのポルトガル勢力の軍事支援を期待してイエズス会士たちに好意的に接した。その後ススネヨス自身もローマ・カトリック信仰に傾倒し、1622年には改宗を宣言した。しかしローマ・カトリック信仰を全土に広めようとする彼の試みは、エチオピア正教会およびその支持者の頑強な抵抗にあつて挫折し、彼は失意のうちに他界した。そして彼の跡を継いだ息子のファシラダス(在位1632~1667年)は、イエズス会士たちを追放するとともに国内に残った改宗者を弾圧し、ここにイエズス会北部エチオピア布教は失敗に終わることとなった。

□北部エチオピア布教関係文書

イエズス会では情報収集や情報の共有による会員相互の団結強化等のため、書翰による通信を重視し、会憲において会員に活動内容の定期的な報告を義務づけた。これに則って、北部エチオピアで布教活動に従事した宣教師たちもまた多数の報告書を著し、ポルトガル領インディアの首府であったゴアを経由してイエズス会総長等に送付した。イエズス会が世界各地で展開した布教活動に関する文書は夥しい数にのぼるが、その多くはローマのイエズス会歴史文書館に未刊行のまま所蔵されている。幸いなことに北部エチオピア布教関係文書については、その多くをイタリア人イエズス会士ベッカリが翻刻し、1903年から1917年にかけて全15冊からなる史料集(Beccari 1903-1917)を刊行している。

しかしベッカリの史料集も関係文書を網羅しているわけではない。例えば、最もイエズス会の活動が活発であったスズネオスの在位期間についても、布教活動の主要報告書である年報が全て掲載されているわけではない。このように重要文書が欠けている要因は、イエズス会が18世紀に各国政府の弾圧を受けて解散に追い込まれ、その際に多数の所蔵文書が散逸したことである。ヨーロッパには、この時に流出したイエズス会関係文書を所蔵している文書館は少なくない。ブラガ地方文書館もその一つである。

□ブラガ地方文書館MS779

ポルトガルの北部に位置するブラガは人口17万人あまりの静かな街である。しかしかつてはイベリア半島のキリスト教化において重要な役割を果たし、その宗教的な重要性はスペインのサンチャゴ・デ・コンポステーラやトレドに勝るとも劣らなかった。現在でもポルトガルにおけるこの街の重要性は変わらず、「コインブラは学び、ブラガは折り、ポルトは働き、リスボンは見せびらかす」という諺に見られるように、首都リスボン、商都ポルト、学都コインブラと並んで主要な街に挙げられるほどである。

ブラガ地方文書館は、街の中心にそびえる大聖堂と向かいあった旧大司教館の中にある。重厚な石造りの建物の奥まった一角を占めるこの文書館は、一見エチオピアとなんの縁もないように見え



ブラガ地方文書館閲覧室

る。しかしこの文書館は、イエズス会北部エチオピア布教関係文書68点を綴り合わせたMS779をはじめとするエチオピア関連の重要文書を所蔵していることで知られている。

初めて文書館を訪れる際には、目的の文書を手にするまでいささか緊張するものであるが、ブラガ地方文書館の館員は親切で、すぐにMS779を書庫から取り出してきてくれた。717葉からなるこの文書集の背表紙は破損しており、現在は二つに分けて閲覧に供せられている。和紙と異なっており経年変化に弱い洋紙が用いられているため、文書の中には劣化のために解読が困難になっているものも少なくない。

MS779については、すでに目録(Vasconcelos 1984)が作成されており、五つの文書が翻刻されている(Oliveira 1999)。しかしブラガ地方文書館が本文書集を収蔵するに至った経緯の解明や、そこに含まれる文書と他の文書館が所蔵する文書との対照はこれまで行われてこなかった。

MS779に含まれる文書を他の機関が所蔵している文書と照合しながら、その来歴の解明を試みたところ、以下の2点が明らかになった。まず本文書集は、17世紀前半に北部エチオピアで布教活動に従事したイエズス会士たちがゴアに送付した各種の報告、そしてエチオピアを追放された宣教師がゴアで執筆した著作の草稿などを、1650年頃にゴアで綴り合せたものであった。そして18世紀後半にポルトガル領においてイエズス会が弾圧された際に、この文書集はゴアから持ち出され、数奇な運命を経てブラガ地方文書館に架蔵されるに至った。以上、詳しくは拙稿(石川 2005)を参照し

ていただきたい。

□文書調査雑感

英独仏といった欧州の主要国の文書館では、所蔵文書の詳細な目録が刊行されていることが多く、インターネット上でかなりの情報を収集できる。しかしポルトガルの場合、国立図書館を除けば、各地の図書館や文書館が所蔵する手稿コレクションの内容を知ることはなかなか難しい。所蔵されている手稿の目録が刊行されておらず、大まかな内容を記した手書きのカードが閲覧室にあるのみといった場合も多い。そのため図書館や文書館を訪れて閲覧室備え付けのタイプ打ちの目録を参照したり、さらには関連ありそうな文書束を請求し、片端から目を通したりする必要がある。

さらに悩まされるのは、ポルトガル語史料を精読することの難しさである。16、17世紀のポルトガル語史料は、ポルトガルにおいて古文書学の対象となるほどの古い文書とはみなされていないが、かといって現代文の知識のみで内容を完全に把握することは難しい。19世紀以前に刊行された辞典、建築用語辞典をはじめとする各種特殊用語辞典、そしてポルトガル各地の方言や慣用語に関する辞典など、解説に役に立ちそうな辞典を買い漁ってはいるものの、いまだ精読にはほど遠い状況である。やや奇異に思われるかもしれないが、ポルトガル語史料を講読する上で重要な役割を果たすのはブラジルにおける学術出版物である。かつてポルトガルの植民地であったブラジルでは、植民地期のポルトガル語史料を用いた歴史研究が盛んであり、その水準は高い。サン・パウロやリオ・デ・ジャネイロでは良質の辞典などが刊行されており、それらはポルトガル語史料を講読する際に欠かすことができないものとなっている。

□おわりに

エチオピア史研究のための史料をポルトガルにおいて調査したと言うと、大半の日本人は訝しがるが、ポルトガル人はそうではない。なぜなら彼らは、国民的英雄であるヴァスコ・ダ・ガマの四男クリストヴァンが、プレステ・ジョアン(英語

のプレスター・ジョン)の国、すなわち北部エチオピアのキリスト教王国をムスリムの手から救おうとして悲劇的な最期を遂げたことを、幼い頃から聞かされているためである。「プレステ・ジョアンの国について調べているのか」と言って歓迎してくれるポルトガルの人々の優しさは、文書調査における不便を補って余りあるものであった。

地方の文書館の調査や余暇を利用してイエズス会士の出身地を旅したことも忘れたい。天正遣欧使節が滞在したことで知られるリスボンのサン・ロケ教会やエヴォラの大型堂は、北部エチオピアに赴いた宣教師たちも足を運んで祈った場所であり、ポルトガル各地の教会や美術館に飾られているヴィゼウ派やリスボン派の画家たちが残した宗教画は、イエズス会北部エチオピア布教と同時代に描かれたものであった。後にエリトリアの灼熱の低地を横断してエチオピア高原に向かい、タナ湖のほとりやティグレの山中において布教活動を行った宣教師たちが、これらの教会で祈り、これらの宗教画を目にしたかと思うと感慨もひとしおであった。

さて肝心の研究であるが、イエズス会北部エチオピア布教関係文書からは、イエズス会の活動のみならず、当時の北部エチオピア社会に関しても多くの貴重な情報を得ることができる。これらの文書を用いた研究はようやく緒についたばかりであるが、今後も着実に進めていきたいと考えている。

〈参考文献〉

- Beccari, C. (ed.) 1903-1917: *Rerum aethiopicarum scriptores occidentales inediti a saeculo XVI ad XIX*, 15 vols., Roma: C. de Luigi.
- 石川博樹 2005: 「ブラガ地方文書館所蔵イエズス会エチオピア北部布教関係文書集MS779の内容と来歴—その史料価値の解明のために—」(『オリエント』第48巻第1号, 187~207ページ)。
- Oliveira, A. de (ed.) 1999: *Cartas de Etiópia*, Braga: Livraria A. I.
- Vasconcelos, M. da A. J. de 1984: *Inventário das cartas anuais das missões da Etiópia*, Braga: Arquivo Distrital de Braga.

(いしかわ・ひろき/東京女学館大学非常勤講師)